

松下幸之助記念財団 研究助成

研究報告

(MS Word データ送信)

【氏名】

須永 修枝

【所属】(助成決定時)

東京大学大学院 総合文化研究科 博士課程

【研究題目】

未承認国家ソマリランドとディアスポラ

【研究の目的】(400字程度)

当初の計画では、アフリカ大陸の東に位置するソマリランドの首都ハルゲイサにてディアスポラがいかなる活動を実際に行っているのか、彼らの活動に対してディアスポラではない人々はどのような考えを持っているのかなどを明らかにする予定であった。しかし、当該地域の安全性を考慮した結果(ロンドンにてディアスポラの人々にアドバイスを受けた結果)、調査実施地域をロンドンに変更し、ディアスポラがいかにして自らのアイデンティフィケーションを日常生活において行っているのかを解明しようとした(研究計画変更届提出済み)。

【研究の内容・方法】(800字程度)

上記の目的を達成するため、申請者は2014年10月中旬から2015年3月までロンドンに滞在し、以下の三つの方法により調査を実施した。第一に、そもそもソマリランドのディアスポラとして考えられる人々がロンドン市内のどこに住んでいるのか、いかなる生活をしているのかを把握することを試みた。この過程において、申請者はロンドンに居住しているソマリー一般の状況について、行政区(council)やチャリティ団体が発行しているレポートを収集するだけでなく、ソマリランドのディアスポラの家(ロンドン西部)にホームステイをしながら、よりミクロな生活状況(食品や衣類などの買い物場所や、イスラーム教徒としての生活スタイル、バックホームであるソマリ地域との繋がり)を捉えようとした。第二に、「ソマリランド」という文言を団体名の一部に掲げているチャリティ団体(ロンドン西部)に、ボランティアスタッフとして週三日間勤務しながら、生活実態のさらなる把握(この団体は行政サービスを受けるに際して、言語の障壁という問題を抱える人々をサポートする活動をしている)や、ソマリランドの国家承認およびアイデンティティの確立を目指す活動家のネットワークについて理解を深めようとした。なお、ロンドンには団体名に「ソマリ: Somali」という文言を採用しているチャリティ団体は数多く存在しているが、「ソマリランド」という国家名(未承認国家名)を取り入れているチャリティ団体は、申請者がボランティア先として選択した団体以外には存在しない。さらに、このチャリティ団体はソマリランドの行政機関の一部である Somaliland Diaspora Agency から、ソマリランドのディアスポラ団体としても認定されている。第三に、上記のチャリティ団体に併設されているカフェ(ソマリ文化において、カフェは男性にとっての社交場であり、女性は滅多に出入りしない)や、その近辺にある別のカフェ(このカフェはソマリランドとは関わりのない他のソマリ地域出身者によって経営されている)に出入りをしながら、ソマリランドのディアスポラとして考えられる人々の特徴や周囲(ソマリランドとは関わりのないソマリ)からの認識を明らかにしようとした。

【結論・考察】(400字程度)

ソマリランドのディアスポラとして考えられる人々は、他のソマリ地域出身者と生活空間を共有しており、友人関係、ビジネス上の付き合いは成立している。しかし、「ソマリランド」「ソマリランダー(ソマリランド人)」という範疇の使用方法は両者間に相違がある。さらに「ソマリランダー」と名乗る人々の間においても、ソマリランドの歴史をどのように構築するのかについて日常的にカフェで話されており、ロンドンにおいて「ソマリランダー」としての名乗りの確立が問題となっていることが明らかになった。ただし、今回の調査ではホームステイ先の場所の都合もあり、ロンドン西部に焦点を当てたため、今後の調査では、より古くからソマリランドのディアスポラが居住している東部の状況と相対化しながら考察を進めたい。